

頬筋ノ神経分佈並ニ頬筋ト顔面神経麻痺トノ關係ニ就キテ

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/37930

解決ヲ與ヘンニハ顫毛細胞表層部ノ分化及基礎小体ノ二
点ノ解明ヲ要ストシ研究ノ結果次ノ結論ニ達セリ

一、顫毛細胞表層部ノ分化ニ關シテハ

a. 顫毛上皮ハ顫毛細胞ノ外常ニ多少ノ無顫毛細胞（又
ハ腺細胞）ヲ含ム

b. 顫毛細胞ノ表層部ノ分化ハ附近ノ無顫毛細胞ノ表層
部ノ分化ト一致ス

c. 故ニ顫毛細胞ニハ顫毛裝置ノ外特有ノ表層部ノ分化
存セズ

二、基礎小体ニ關シテハ

a. 顫毛細胞ニハ決シテ基礎小体欠損セズ

b. 基礎小体ハ皮殻又ハ小皮線内ニ於テ來リ又ハ其下方
ニモ來リ得

c. 基礎小体ハ多クノ場合ニ於テ細胞縁ノ長徑ニ直角ニ
走レル平行ナル線列ヲ形成シ且ツ同一線列ノ各個小
体ハ互ニ相癒合セントスルノ傾向ヲ有ス此ノ事實ハ

顫毛ノ官能ト密接ノ關係ヲ有スルナラン

三、演者ノ檢セル範圍ニ於テハ顫毛細胞ハエンゲルマン
及フレンツェル等ノ唱導スル如キ細胞外ニ存スル小桿

体又ハ其他ノ顫毛根部ノ特別ナル分化產物ヲ發見セズ
顫毛ハ基礎小体ヨリ其末端ニ至ル迄其胞体内（又ハ小
皮線内）ニアルト又ハ胞体外ニアルトヲ問ハズ常ニ平
等ノ太サヲ有シ且ツ特別ノ構造ヲ有セズ（自抄）

顫筋ノ神經分佈並ニ頰筋ト顔面
神經麻痺トノ關係ニ就キテ

會員 井 上 通 夫君

演者ハ近時出版ノ多數ノ解剖學書（Langer-Toldt, Gegen-
baur, Heule-Merkel, Krause, Spelholz, Ranber-Kopsch,
Cuvellier, Sappey, Testut 等）及ヒ生理學書（Landois,
Steiner, Hermann 等）ニ於テ頰筋ノ官宰神經ヲ顔面神經
ノミト爲セドモ該筋ハ此神經ノ他ニ尙三叉神經ノ一枝ナ
ル頰筋神經ヨリモ支配セラル、ニアラズヤトナシ發生學
上、解剖學上、比較解剖學上、臨床上及ビ組織學的所見
ニ基キ其研究成績ヲ次ノ如ク總括セリ

一、頰筋ハ多クノ載籍ニ見ル如ク顔面神經ノミヨリ支配
セラル、ニアラズシテ此ノ他ニ尙三叉神經ヨリ來ル頰

筋神經ヨリモ官宰セラル故ニ頰筋神經ハ諸書ニ記載セ
ル如キ純粹ノ知覺神經ニアラズシテ混合神經ナリ
二、顔面神經麻痺ノ際他ノ顔面諸筋ガ完全麻痺ニ陥ル時
モ頰筋ノミガ尙部分麻痺ニ止ルハ該筋ガ顔面神經ノ外
尙三叉神經ヨリモ支配セラル、ノ證ナリ

討 論

會 員 塚 口 利 三 郎 君

頰筋神經ガ極メテ多型性ニシテアル時ハ非常ニ著明ナレ
ドモ時トシテハ甚ダ幽微ニシテ之ヲ檢出スルニ困難スル
コトアルハ日常吾人ノ遭遇スル所ナルガ其後ノ場合ニ該
神經ガ果シテ他ノ如何ナル神經ニヨリ代償セラル、ヤヲ
豫メ討査シ措カンコトハ神經分佈ヲ研究スルモノ、第一
ニ顧念セザル可ラザル處ノ事項ニシテ殊ニ本神經ノ如キ
吻合多キモノニ於テハ特ニ其必要ヲ看取スルナリ

口蓋形式ニ關スル臘製模型ノ供覽

會 員 井 上 通 夫 君

供覽セル平板模型製作法ニヨル臘製模型ニ於テ左右口蓋

板ノ後部ハ已ニ舌根ノ上ニアリ其前部ハ右側ニテハ舌ノ
右側縁ニ沿ヒ垂下スルモ左側ノ口蓋板ハ已ニ舌上ニ轉位
セリ演着ハ此胎兒ヲ以テ口蓋形成ノ所謂移行期ニアルモ
ノトシ此他尙之レガ作成ニ供シタル實物ノ連續切片ヲモ
示サレタリ。

談 話

會 員 鈴 木 文 太 郎 君

世人易々モスレバ解剖學就中系統解剖學ニ關シ殆ンド研
究ノ餘地ナシト云フモンハ全ク謬見ニシテ今日我邦醫學
ノ基礎タル解剖學ハ凡テ歐洲學者ノ所説ヲ傳承スルニ過
ギズ會々獨創ノモノアリト雖モ或ハ實習場裡ニ成ル統計
カ或ハ支離ノ斷片タラザルナシ從テ我解剖學ニ於ケル研
究事項ハ多々ニシテソノ開拓スベキ地積ノ廣大ナル收穫
ノ豊富ナルハ後進學者ノ大ニ意ヲ強フスルニ足ルモノト
ス只研究手段ニ對シ靜思熟考用意周到ヲ要スルヤ論ヲ俟
タズ、予ハ今左ニ平素懷ケル疑義ノ一二ヲ示シ聊カ我學
界ニ於ケル研究興味ヲ促サント欲ス。